
ハッカ星人

雨虹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハツカ星人

【Nコード】

N8854X

【作者名】

雨虹

【あらすじ】

意地を張ってもろくなことになりませんよ。

地球から六千光年離れた宇宙の彼方、ここは惑星^{ザンギリ}。

この惑星で星を守る為に戦うザンギリマンと、惑星侵略を企むハツカ星人が壮絶な戦いを繰り広げていた。

ザンギリマン「くそっ！このままではやられてしまうっ！」

ハツカ星人「もはやこれまでだなザンギリマン！さあ、大人しくこの星を渡してもらおうか！」

ザンギリマン「…待て！」

ハツカ星人「何だ？」

ザンギリマン「例えばこの星を渡すと言ってもどうするんだ？何が目的なんだ！」

ハツカ星人「目的か、別に目的なんかないさ。俺は星を侵略するのが好きなんだよ！だからやってるだけさ。」

そう、様はこのハツカ星人は星を侵略しても、その後の事は特に考えていない奴だった。

ザンギリマン「なるほどね、つまり私達ザンギリ星の人々はお前の私利私欲の為に傷つき、逃げ惑い、何もかもを失っていくという事か。」

ハツカ星人「けっけっけ！その通りだよ！」

ザンギリマン「そしてお前はこの星を侵略した後、次の星へ行つて同じ事を繰り返すという訳だな。」

ハツカ星人「そういう事だな。」

ザンギリマン「お前、家族はいるのか？」

ハツカ星人「いない、俺はずっと独りで生きてきた。生まれた時からな。」

ザンギリマンは少し考えてハツカ星人に背を向けると、歩きだした。

ハツカ星人「待て！何処へ行く？」

ザンギリマン「…残念だが、俺の負けだ！いや、俺だけじゃなく、この星の敗北と言った方がいいかもな。」

ザンギリマンの思わぬ言葉に戸惑うハツカ星人。

ハツカ星人「負けを認めるのか？それでいいのかお前は！」

ザンギリマン「ああ、もういいんだ。今の俺の力ではどうやったつてお前を倒す事は出来ない。だったらもう潔く諦めてしまった方がいいー！」

ザンギリマンのこの態度に、ハツカ星人はだんだんとイラつき始めていた。

ハツカ星人「ふざけるな！何開き直って諦めてんだよ！」

ザンギリマン「さあ殺せよ！やれよ！」

ザンギリマンは両手を上に挙げ、目をつぶった。ハツカ星人は攻撃をしようとはしない。「

ハツカ星人「ふざけるなよ、俺は必死になっ

て自分の星を守ろうと本気で俺に向かってくる奴らを倒すから楽しいんだ！お前みたいに投げやりな奴倒したところで楽しくない！」

ザンギリマン「お前情けねえなあ。本気で向かってくる奴らしか倒せないのか？お前何かやったらなんか反応がないとダメなんか？子供だな、お前。」

ザンギリマンは少し笑みを浮かべた。それとは対照的にハツカ星人の顔は怒りに満ちている。二人の間に涼しい風が吹いた。

ハツカ星人「…もういい、わかった！もうこんな戦い終わりにしてやるよ！覚悟しな！」

するとザンギリマンは横になって仰向け状態になった。

ハツカ星人「なんだその体制は！馬鹿にしてんのか！」

ザンギリマン「いや、お前が狙いやすいようにしてやってるだけさ。これならどんな下手な奴も攻撃当たるだろ？」

ハツカ星人「なんて奴だ…どこまで投げやりになっちまったんだ！来いよ！俺を倒してみろ！」

ザンギリマン「あー無理無理！参りましたー。」

ハツカ星人「このヤローお…。」

ハツカ星人は攻撃をしようとはしない。そしてザンギリマンは冷たくハツカ星人に言い放つ。

ザンギリマン「お前が星を侵略するのは勝手だよ。お前の生きがみたいだな。なんだろ？ただな、この先どんなに星を侵略しても、お前に本当の楽しさなんて見つからない。いいか？本当の楽しさってというのは、同じ目標を持って支え合える仲間がいてこそ見つかるもんなんだ！これから先もずっと独りのお前には絶対わかんねえだろうな！」

ザンギリマンはそう言うと、ハツカ星人の元から飛び去った。独りになったハツカ星人はそのまましばらく動けない状態になった。

ハツカ星人「俺は間違っただけ…仲間？そんなもの必要ない！俺は誰にも頼る必要はないんだ。最強の力を持っているから…。だが、本当の楽しさって何なんだ？」

ハツカ星人は自問自答を繰り返した。何度も何度も…

ハツカ星人「いや、あいつは騙してるんだ！俺が侵略を辞めると思ってたそんな事言ってるんだ！なめんじゃねえよ！」

ハツカ星人はその後一気にザンギリ星を侵略すると、また次の星へと飛びたって行った。

そしてその星を侵略すると、また次の星へ…

こうしていくつも年が経ち、ついにハツカ星人は全宇宙の星を侵略した。残ったものは侵略した無限に近い星の数々。ハツカ星人は全宇宙の頂点に経った。そして、ハツカ星人の楽しみは全て終わった。やり尽くしてしまったのだ。終わり。全て終わり。

ザンギリマンとの戦いから気づいてた。でも、意地を張ってしまった。気づかなかったフリをしていた。その結果全て終わった。

ただそれだけのこと。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8854x/>

ハッカ星人

2011年10月24日14時07分発行